

Data (2026年8月現在)

所在地 〒634-0813

奈良県橿原市四条町 88 番地

専任
スタッフ坂東春美(教授)、堀池諒(准教授)、
近藤いずみ(助教)

URL

[https://sites.google.com/view/g-cham/
naraphn](https://sites.google.com/view/g-cham/naraphn)

ゼミ生と教員3人(前列左4人目から近藤、坂東、堀池)

奈良県立医科大学医学部 看護学科

公衆衛生看護学領域

History and Now

どのような機関なのでしょう？

奈良県立医科大学は1945(昭和20)年に設立され、2004(平成16)年に医学部看護学科が開設されました。公衆衛生看護学領域では、都市部から山間へき地まで多様な地域特性を持つ奈良県を基盤に、地域に根差した保健師の養成と、地域保健に関する研究・実践を両輪として活動しています。現在は教授・准教授・講師(兼務)・助教の4名の専任教員が在籍しています。学部・大学院での教育研究体制を整えており、多くの卒業生が保健師として奈良県内外で活躍しています。

Education

どのような教育をしていますか？

保健師課程は選抜制により、学ぶ意欲のある学生が履修しています。授業では、個別支援の技術・地域診断から健康教育・政策立案まで公衆衛生看護活動を総合的に学びます。保健所・市町村・学校・産業・へき地など多彩なフィールドでの実習を通じ、高い実践力を育んでいます。また、GIS(地理情報システム)やオープンデータを活用した独自の地域診断手法「G-CHAM」を用いた演習を積極的に取り入れており、根拠に基づく政策立案(EBPM)を実践できる人材の育成に力を入れています。さらに、4年生を中心に、公衆衛生看護の視点から地域の健康課題を科学的に分析できるよう領域ゼミ等の機会をつくり支援しています。大学院では、地域と科学をつなぐ高度実践者・研究者を養成しています。

ひとこと

現場で生まれた問いを研究として深め、成果を現場に還元する。そのサイクルの積み重ねが、地域社会の健康増進につながります。あなたの「なぜ」を育てて、向き合ってみませんか。大学院進学や研究について、ぜひお気軽にご相談ください。お待ちしております。(坂東)

Research

どのような研究をしていますか？

GISと空間統計を用いた地域診断の可視化・分析を領域の特色の一つとしています。健康課題の地域格差を空間的に可視化し保健師活動への示唆を導く研究や、災害時の保健師活動支援など、保健師が関わるあらゆる健康課題を根拠に基づき分析し社会実装まで取り組んでいます。また、困難な状況下でも健康行動を継続できる人や地域の強みに着目した研究(ポジティブ・デビアンズ)にも取り組んでいます。児童虐待・母子保健・感染症・喫煙防止・自殺予防など、各教員の経験を生かしたテーマを中心に多様な研究を行っています。オープンデータや政府統計を積極的に活用し、現場の実践に還元できるエビデンスの生成を重視しています。

Collaboration

保健活動の現場とのつながりは？

奈良県および県内外の自治体の人材育成研修等を担当し、地域診断支援や健康危機管理対策支援を自治体に応じた個別性の高い内容で実施しています。そのほか、事業評価委員会等を通して、現場の保健師活動の実践力向上を支えることを目指しています。また、県内行政保健師等にご協力いただき合同就職説明会を学内で開催するなど、学生と行政現場のマッチングにも取り組んでいます。現場の保健師が直面する問いを出発点とした研究テーマについて、共に課題解決を探る協働の姿勢を大切にしています。